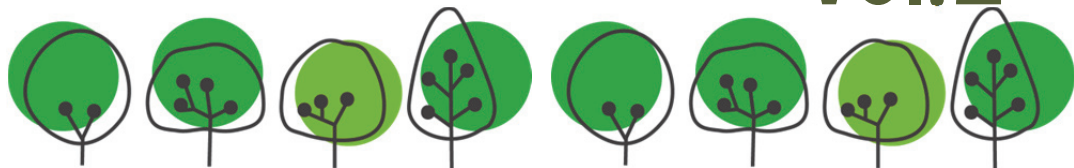




木地師のふるさと

vol.2



「木地師のふるさとシンポジウム」を開催しました

11月18日に市立愛東コミュニティセンターで「木地師のふるさとシンポジウム」を開催しました。

北は福島県、新潟県、南は岡山県、鳥取県まで、全国から木地師にゆかりのある方々や関心をお持ちの方々約160名にご参加いただきました。



会場のロビーには、パネリストとしてご参加いただいた「小椋一男さん」の作品や奥永源寺で活動する木地師「北野清治さん」「小椋昭二さん」の作品、全国の木地師関係施設のパンフレットなどを展示し、開演前、休憩中に多くの方々に見ていただくことができました。

今後市内に限らず、全国に木地師をはじめとする木の文化、森の文化を知ってもらうための取組を行っていく予定です。

「木地師のふるさと」奥永源寺



展示したパネル



シンポジウム当日のロビー展示

当日プログラム

- ◎実行委員会会長挨拶 筒井正さん（研究者）
- ◎市長挨拶 小椋正清（東近江市長）
- ◎基調講演
「木地師研究の足跡と展望」
講師：須藤護さん（龍谷大学名誉教授）
- ◎パネルディスカッション
「基層文化としての木地師文化」
コーディネーター：筒井正さん（研究者）
パネリスト：須藤護さん（龍谷大学名誉教授）
小椋一男さん（木地師）
小椋正清（東近江市長）
- ◎質疑応答

基調講演とパネルディスカッションの要旨

須藤護さんには「木地師研究の足跡と展望」と題した基調講演を行っていただきました。

日本の器の歴史をふりかえると、古代はおもに土器が使われましたが、鎌倉時代には木器や漆器が多く使われていたことがわかってきました。明治時代に器の主流が磁器に変わっていくまで、600～700年も間の木器や漆器の時代があったことになります。それを支えてきたのが木地師・塗師・漆掻きなどの職人でした。

今日まで、木地師について柳田國男氏をはじめ多くの研究者たちが研究を行ってきました。木地師研究の重要性は、日本の木工職人の技術と歴史、食文化の変遷、織物等の近代産業を支えた人々の歴史を若い人びとに伝えることであり、それは日本人の履歴を残すことと同意であると考えています。

木地師のふるさとである東近江市でしかできないこととして、木地師の歴史と活動を中心とした総合的な文化施設を構想してみてもどうかと考えています。そこでみんなが学習し、考え、思索し、将来について語り合える場所をつくれなかと、私も実行委員会の一員として、東近江市と協力していきたいと思っています。



筒井正さんにコーディネーターをしていただき、「基層文化としての木地師文化」と題したパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションの最後には、会場にお越しの方々からたくさんのご意見、ご質問をいただきました。

◎木地師文化の再評価

須藤護さん：小椋谷六ヶ村から発信された木地師の文化が全国に定着していきました。その木地師の技術、道具、山の管理などから見えてくるものがあり、現代を生きる私たちが学ぶことが多いのではないかと思います。

小椋正清：行政の長として過去の歴史をひも解き、しっかりとまとめ上げて、そして本家本筋として残すことによって、全国に今も存在するネットワークをより強固なものにしていこうとすることと、文化的価値、歴史的価値を今こそしっかりと確立して、後世に伝えないといけない義務があると私自身思っています。

◎木地師のふるさとと木地師文化の発信

須藤護さん：地方の木地師さんを訪ねてお話を伺い、もし捨てられてしまう道具や製品などがあれば、東近江市で保管させていただきをお願いをする。日本各地に分散している貴重な文化財を、東近江市に集結させていく作業が必要ではないかと思います。そのことによって木地師文化の再評価がなされ、各地の木地師さんがプライドをもって仕事に携わることができるのではないかと考えています。

◎木地師のふるさとのまちづくり

小椋一男さん：長野県の南木曽地域で専門学校での技術指導や後継者育成のために地元の高校に簡単なるくろを買い、木地挽きに触れてもらうようにしている。専門学校へは地元の木地師がろくろ技術の指導に行っている。私を含め、全国の小椋さん、大蔵さん、堀川さんという木地師ゆかりの姓の方々と協力していきたいと思っています。

小椋正清：木地師文化を全国にアピールして、より多くの人に木地師文化を知ってもらい、重要性を伝え、観光資源としても使っていきたいと思っています。そのためにも、木地師文化を日本遺産に向けて動きだしています。



シンポジウム参加者の声

シンポジウムの参加者の方々からは、東近江市の木地師の取組に対するあたたかいお言葉や激励、熱い期待の声を寄せていただきました。

今回のこのシンポジウムに出席でき、50 年来の夢がかないました。今後の我が家の心のふるさと、ルーツとして大切に考えていきたい。

【長野県】

木地師文化は日本基層文化と言うべき歴史的価値があることを認識した。今まで抱いていた「小椋」姓に寄せていた「淡い謎のロマン」を「先人達の賢い知恵」と確信することができた。

【岐阜県】

今後も木工ろくろ関係の方々の交流の場として充実・発展させていただければうれしい。

【兵庫県】

手挽きや足踏みろくろの体験施設、かなづくり体験施設、一連の木地師の技術研修プログラムを実施してほしい。【岐阜県】

市内に暮らしていても木地師という言葉を知ったのは最近。もっとアピールするべき。皆に知ってもらうことが大切だと思う。【東近江市】

私も木地師にゆかりの地であり、興味と関心を持って出来得る協力は惜しみなくさせていただく所存。【岡山県】

シンポジウムを終えて

木地師の歴史的価値と全国に広がるネットワークを再評価し、木の文化・森の文化の大切さを再考することを目的に「木地師のふるさとシンポジウム」を開催いたしましたところ、東近江市はもとより、全国各地から多数のご参加をいただき、盛会裏に終わることができました。シンポジウムの参加者からは、木地師文化の継承や森林文化を保護する施策に対する励ましや期待の声が多数寄せられました。

東近江市では、この木地師文化を地域資源と位置づけ、地方創生のみならず、日本の文化遺産として次世代に継承するため、現在、木地師に関する資料収集、研究調査、そして木地師文化の情報発信、各地の漆器産地とのネットワーク化を目指した取り組みをはじめました。

今後とも「木地師のふるさと発信事業」に対するご理解とご協力をお願いいたします。

木地師のふるさと発信事業実行委員長 筒井 正

ツアー参加者の声

シンポジウム翌日11月19日には、「日本遺産奥永源寺に木地師のふるさとを訪ねる」ツアーも実施しました。平成29年に日本遺産に追加された「永源寺」を始め、蛭谷町の惟喬親王御陵や筒井神社、君ヶ畑町の大皇器地祖神社や高松御所、奥永源寺で活動をしている木地師さんの工房を訪れました。

参加者の方々全員が「小椋さん」ということもあり、家族・親戚の集まりであるかのように楽しんでいただきました。



日本遺産の認定を目指しています

東近江市では、木地師文化や政所茶といった豊富な資源をもつ小椋谷について、日本遺産認定を目指しています。

白洲正子さんの著書「かくれ里」にあるように、小椋谷は「今は失われた日本の姿、人間本来の生活が、そこには生き続けている」ところであり、今日においても失われつつある日本の山里、伝説ある村の姿が体现できます。

日本遺産認定をきっかけに、木地師文化を全国、世界に向けPRできればと考えています。



色とりどりのトタン屋根
と緑の羊の群れのような
茶畑



ロクロと手カンナで
木の中から器を掘出す



惟喬親王御陵



政所に伝わる
多くの能面

木地師に関する資料を集めています

木地師やその子孫の方々が全国におられるため、木地師に関する資料も全国各地にあると考えられます。昨年度実施したアンケートの中で、後継者がいない、子どもたちは関心が薄い等、現在お持ちの資料の保存管理に困っているとのことをお声をいただきました。

そこで、東近江市では、木地師のふるさととして木地師に関する資料の収集・保存を行います。

お持ちの木地師に関する資料等を東近江市に寄附や寄託をしてもよいとお考えの方は、下記までご連絡ください。

【連絡先】

〒527-8527

滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

東近江市企画部企画課

TEL 0748-24-5610



全国からいただいた
木地師に関する資料

御報告

2/1（木）NHK 総合テレビの人名探究バラエティー「日本人のおなまえっ！」で「小椋さん」について、放送されました。放送にあたり、蛭谷町、君ヶ畑町に取材に来られました。

木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

TEL（代表）0748-24-1234 （直通）0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

（Facebook では随時、お知らせ等を行っています！！）